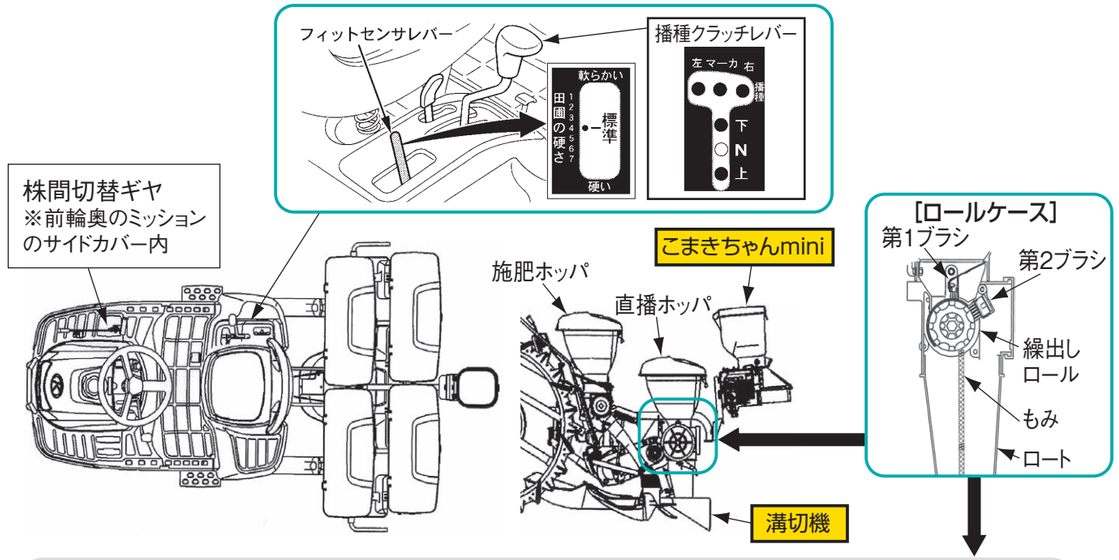
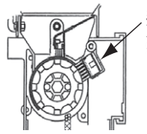
EP4-TC
取扱いのポイント Kubota

※この取扱いシートは取扱う上でのポイントのみ説明しています。詳細は取扱説明書を参照してください。

各部の名称





条播作業するときは、この第2ブラシを外して播種。

点播／条播　切替要領

条播の場合は、第2ブラシを外して播種します。

※外し方は、後述の「第2ブラシの点検、交換要領」を参照。

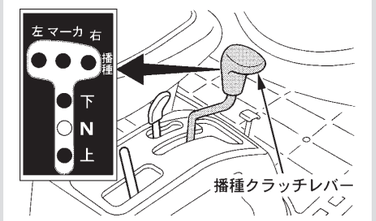
重要

1.EP4-TCは鉄コーティング直播専用機です。
- 直播に適した種もみ品種を選定し、正しくコーティングして　から播種してください。
- カルパもみ、乾もみの播種はできません。
（土中播種に必要な、種もみの作溝、覆土機能がないため）

2.直播作業では、ほ場について次の注意をしてください。
- 休耕田や雑草の多いほ場は避け、水管理しやすい圃場を選ぶ。
- 「あぜ塗り」を行って漏水しにくいほ場を作る。
- 代かきは均平を重視する。
- 少し硬めのほ場にする。
（代かき後、移植の時より半日～1日長く放置するのが一般的）

≪備考≫強雨時の播種作業は極力控えてください。(播種もみが埋没しやすいため)

全面にコーティングして、茶色になるまで酸化させてから播種する。

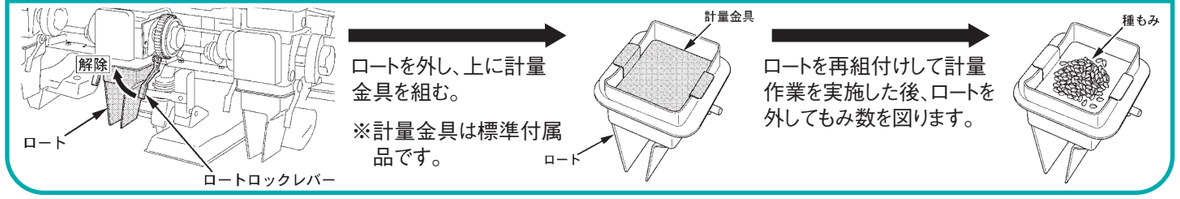


播種の開始・停止操作、マーカ操作

座席右横の播種クラッチレバーで操作します。

重要　＊播種開始時は急発進、急加速はさけてください。（施肥ムラを防止するため。）

播種量調節の要領1



播種量調節の要領2　(1)株間と(2)繰出しロールの開度を(3)の目安を参照して調整

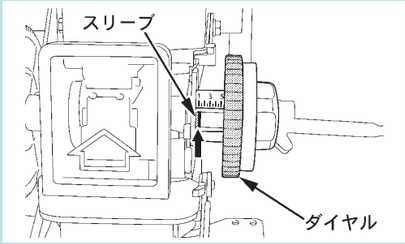
株間（cm）	14	16	18	20	24
株数（株）	80	70	60	55	45
A（歯数）	24	26	27	28	31
B（歯数）	28	27	26	24	22

出荷時

(1)株間の切替方法

前ミッションケース右横のギヤ組替で切替えます。
（ギヤカバーの左図ラベルでセット内容を確認）

- 点播では45，55，60株／3.3㎡がお薦めです。
※作業条件の影響での点播乱れが生じにくい
- 条播では80株／3.3㎡にセットします。



(2)ロール開度の調節方法

- 調節ダイヤルを回転させて、スリーブの右端での目盛位置を基準に合わせます。

補足　＊ダイヤルを「0.3」増減する事で、約１粒増減します。

重要　＊ダイヤルは、値を増やす方向で調節します。（減らす側に回すと損傷する可能性があります）減らす場合は、一度もみを抜いてください。

(3)調量設定の目安

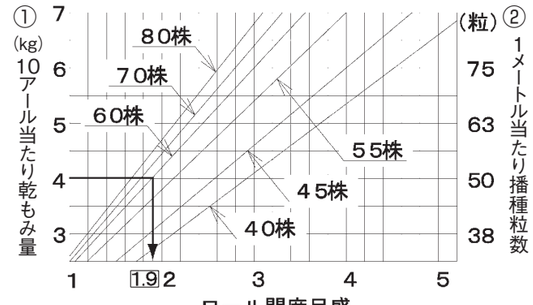
『点播の場合』

下記①～③を指標に、右の図表を参照して開度の設定と検証をします。
①10アール当たりの乾もみ量
②１m当たりの播種粒数
③１株当たりの播種粒数

『具体例』

①10アール当り4kg乾もみを播種する目標で、60株/坪（株間18cm）で播種する場合。
⇒開度は右グラフの通り1.9にします。
この場合、
②1m当たりの粒数は、グラフの通り50粒となります。(実測時の目安に活用)
③1株当たりの粒数は、開度1.9なので右表の通り、約8粒です。

参考　コーティング比…乾もみ:鉄=1:0.5
乾もみ1000粒重…24gでの事例



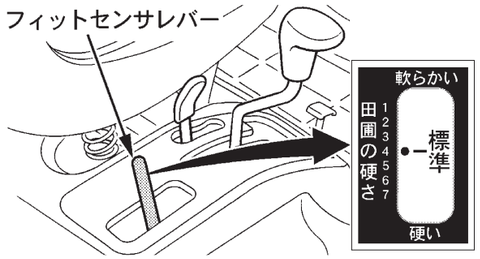
③1株粒数	粒数／株	5	6	7	8	9	10
	ロール開度目盛	1.0	1.2	1.5	1.7	2.0	2.2

『条播の場合』　株間は80株に固定し、右グラフの①、②を指標に開度調整、繰出し検証します。

重要　＊もみの形状、コーティング比や車速などによって播種量は変化します。調量時は必ず「実作業の速度で５～10m走行繰出しをして、播種粒数を検証し、②の値とズレが大きい場合は再度、調整してください。

AQ.J.3-3.2.K　品番　PK151-9773-1

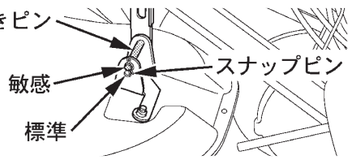
フロート感知調整の要領



座席右横のフィットセンサレバーでほ場に応じて「軟⇔硬」が７段階に調整できます。

補足

＊フィットセンサレバーで調整しきれない場合は、右図の頭付きピンの位置変更で更に敏感にできます。



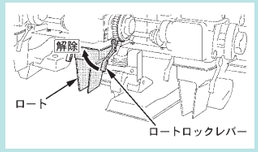
掃除・メンテナンス

種もみの固着を防止するため、作業後の種もみの排出、各部の定期的な清掃を下記要領で行なってください。

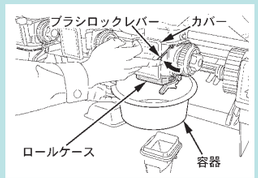
残もみ排出の要領

①ロートを外します。

ロックレバーを解除して外します。
※替わりに、もみを受ける容器を下に置きます。

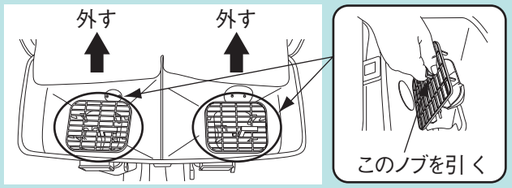


②第2ブラシのロックレバーを解除します。



③ホッパ底部の第1ブラシを外して排出します。

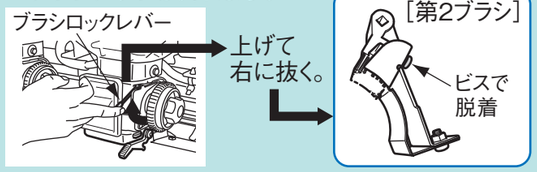
ホッパ下の網を抜き、右図のノブを引くとホルダとブラシの一体部品が外れます。



再組付け時は、カチッとロックされるまで差し込むこと

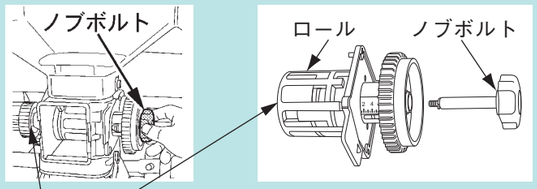
第2ブラシの点検、交換要領

①ロールケース後面のカバーを上に抜きます。
②ブラシロックレバーを最上まで上げ、右に引くと、ブラシアッシが外れます。

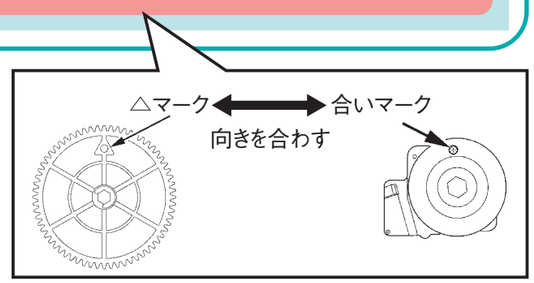


繰出しロール脱着要領

ロールケースのノブボルトを緩め、ロールを抜きます。
注）再組付時はノブボルトを奥まで確実に締めること



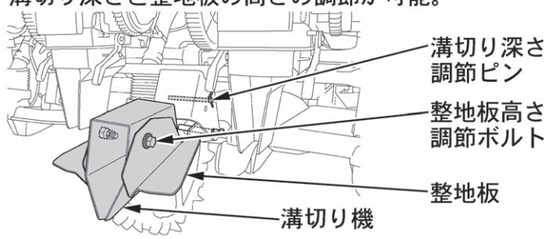
重要 ＊再組付時は、ケース左のギヤの△マークとロール側面の合マークの方向を合わせて組みます。



溝切り機

溝切り機を標準装備しています。

溝切り深さと整地板の高さの調節が可能。



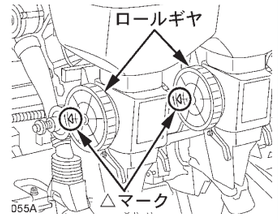
施肥機

施肥量調節

右側ホッパにある右図ラベルの要領で調節します。

参考 施肥量は、倒伏しやすい品種では田植機作業より少なめ（～90%）、それ以外は同等が一般的です。

繰出しテストはロールギヤ 30 回転分を測定し、取扱説明書の目標値の一覧と比較検証します。



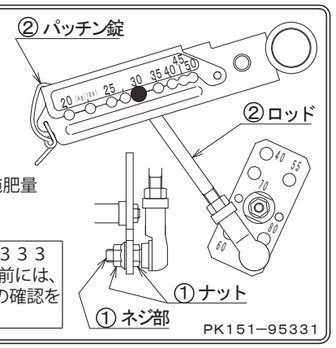
補足 ＊一条止めや、肥料排出の手順のラベルもホッパに貼っています。

施肥量調節方法

次の手順で、左右2ヶ所を調節して下さい。

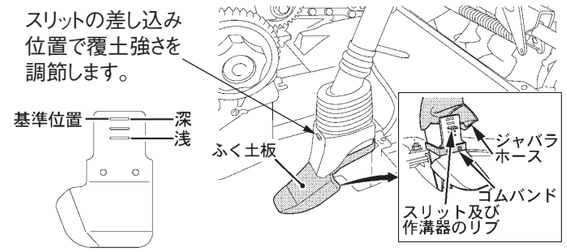
①本機の株数と同じ株数の位置にネジ部を差込み、２本のスパナでしっかりと締めて下さい。
②パッチン錠を外し、10a当たりの施肥量(20～50[kg])に、ロッドを合わせパッチン錠を止めます。

この施肥量は、クボタ春風肥料Ｔ３３３を使用した場合の目安です。作業前には、取扱説明書に従って、繰り出し量の確認を行って下さい。



覆土強さの調節

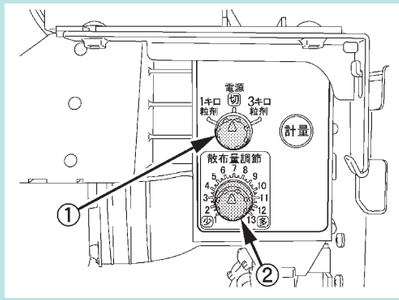
スリットの差し込み位置で覆土強さを調節します。



こまきちゃん mini

重要 ＊直播同時作業に適した除草剤を使用してください。

下図①のツマミを 3kg 粒剤に切替えて右の計算式、及び目安表を参考にして調量します。



補足

＊直播と同時散布できる除草剤は、初期除草の効果に限定された薬剤です。
よって、1～1.5葉に生育した時に、2次除草剤を散布するのが一般的です。

『調量基準』

☆繰出し量の基準値（g）は下式で計算できます。

$$\frac{\text{目標散布量(kg/10a)} \times \text{条数} \times \text{条間(cm)} \times \text{走行距離(cm)}}{10000}$$

◆ **散布量設定一覧表**

薬　剤		３キロ粒剤			
横送り回数		20 回		26 回	
株間 (cm)	株数 (株 /3.3㎡)	計量 (g)	ボリューム (目安)	計量 (g)	ボリューム (目安)
14	80	99	3.0	129	3.5
16	70	114	3.5	147	4.0
18	60	129	3.5	165	4.5
20	55	141	4.0	183	5.0
24	45	171	5.0	222	6.0
28	40	198	5.5	258	7.0

EP-4TCはこの目安で設定

補足

＊直播では、もみや肥料の二重まきを、できるだけ減らす方が方が安心です。
（廻り植え作業が可能な場合は、まわり植えするほうが良い）
但し、必要以上のあぜ際クラッチ操作は避けて、確実に播種してください。